



# 海星祭（愛校バザー）

生徒会担当 谷本理奈

9月7日（日）に海星祭が行われました。当日は天候にも恵まれ、地域の方々、保護者のみなさま、本校の卒業生、マリア幼稚園、附属小学校をはじめとする、500名を超える方々に来校していただきました。

また、海星祭開催に向けて、保護者のみなさまにご協力とご支援いただいたことに、心から感謝申し上げます。

各クラス・コース、工夫を凝らした模擬店があり、お客様をおもてなしました。地の塩・世の光として自分を使うことが出来たのではないかと思います。

また、今年度は、進学コースのESD探究の一環として古着やペットボトルキャップの回収を行ったり、ブライトコースの特別活動（ブライトアクト）で育てた野菜の販売を行ったりしました。さらに、生徒のみなさん全員にステージを楽しんでほしいという願いから、バザー・模擬店部門とステージ部門を分けてフィナーレを実施するというスタイルに変更しました。楽しんでいただけましたか？

生徒のみなさんと先生方、保護者の皆さまとともに、心をつ一つにして思い出に残る海星祭を作り上げることができました。

今回の収益は、マリアの宣教者フランシスコ修道会を通して、世界の教育施設や医療機関に寄付させていただきます。

本当にありがとうございました。



FUKUOKA KAISEI GIRLS'

HIGH SCHOOL

2025.9

「旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使をもてなしました。」

ヘブライ人への手紙 13;2

まだまだ暑い日が続いていますが、少しだけ朝夕が涼しくなり、季節が確実に進んでいると感じます。新しい生活に慣れることに忙しかった1学期が終わり、それぞれの目標に向かって、集中できるよい季節になりました。

さて、この夏、暑期中、課外授業、部活動、スタディーキャンプ、ミラクルチャレンジ、ホームレスの人たちのための美野島教会での炊き出し、仲間と切磋琢磨しながら、それぞれが自分の打ち込みたいものに打ち込んでいる姿をたくさん目にしました。生徒たちの成長を嬉しく見守りながら、この先、さらによい結果がでると信じています。

私は、21名の生徒と共に、7月26日から8月1日までインドネシアに行っていました。姉妹校レジーナパシスへの訪問です。長い間、実現させたいと思ってきたプログラムでしたが、治安や衛生環境など、様々な課題があり、およそ10年間あためてきました。オンラインで交流を続けてきましたが、実際に行ってみて、直接会って交流することに勝ることはないと決断し、たくさんの先生方にご協力いただきながら、プログラムを創り上げ、そこに多数の応募があり、実現したことはとても嬉しいことでしたし、福岡海星にとって大きなチャレンジの研修旅行となりました。

さて、本校の生徒たちにとって、インドネシアの旅は、大きなカルチャーショックであったようでした。出てくる食べ物は鶏肉、右の手でそのまま食べ物を食べることもある、夕飯はほとんど外食、トイレ環境、住環境、日本のトイレは世界一と言いますが、特にインドネシアのトイレの環境は深刻でした。生活してみて、本当のインドネシアがよく見えると言った生徒がいました。同時に、インドネシアから日本がよく見えるとコメントした生徒もいました。しかし、いかなる環境にあったとしても、それを超える「よきもの」が確かにインドネシアにはあったと考えます。

インドネシア語が公用語であるにもかかわらず、すべて英語で展開される授業。生徒たちの高い英語力。英語を到底外国語として学んでい

るレベルには思えませんでした。学校の授業はとても魅力的でした。私が参観した授業の中には、日本とインドネシアの違いを細かく分析しているものもありました。本校生徒は、「学校が7:00に始まる」「インドネシアの人は、バイクに4人も乗って運転している」「地面にそのまま座って、食べ物広げてご飯食べる」と発言しました。担当していた先生からのコメントは、「ん？それが何故おかしい？」すなわち、それぞれの持つ文化や生活習慣に、優劣はないということを暗に指摘されたのです。真に異文化を受け入れるということは、相手を「あるがままに受け入れること」、多様性を自分の中から排除せずに、「豊かさ」と感じることにあります。

どこで出会っても優しく微笑みかけてくれたシスター方、病人がでたときは気分がよくなるまで最後まで付き添ってくださいました。修道院で丁寧にその歴史について説明、手厚くおもてなしをしてくださいました。ステラマリスの生徒として、わたしたちひとり人と丁寧に握手をしてくださった高齢のシスター。問題が発生したときに、最後まで時間をかけて向き合ってくださったマラン校長先生。お昼の時間も、授業中もずっとそばにいてくれたバディーのみんな。興味深い授業を練って作ってくださった先生方。私たちのバスが入りやすいように手筈を整えてくださったセキュリティーチームの方々。見返りを求めないおもてなし、優しさに心動かされる日々でした。

「人のために時間をかけること」、それは自分に時間が余ったからやるということではありません。目の前にいる友のために、そうしないではいられない気持ちになったからです。つまり、インドネシアの人々は、わたしたちのために、そうしないではいられなかったのです。そこに、真の人と人との絆が生まれます。それだから、お別れするとき、涙が出て止まらなかったのでしょう。わたしたちは、ここから平和への階段をのぼるのです。

本校の生徒ひとり一人が、目の前にいる友人のために、見返りを求めず、自分の時間を使うことができる人になって欲しいと考えます。

2学期は「海星祭」から始まります。「そうしないではいられない」という気持ちを持って、隣人のために心をこめて奉仕したいと考えます。

第2学期も、保護者の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

校長 古賀 誠子



## 福島ホープツーリズム

今年度は、グローバル特進コースの2、3年生と希望者で福島ホープツーリズムに参加しました。

1日目は、原子力災害伝承館、双葉町の「帰還困難区域」に指定されている一部地域を回り、大平山霊園、請戸小学校、福島水素研究フィールド周辺を訪れました。in the Rye 株式会社沖野さんから「復興」をテーマに話しいただきました。



▲原子力災害伝承館



▲請戸小学校

2日目は、いわき市ワンダーファーム、東京電力廃炉資料館、南相馬原町教会を訪問しました。ワンダーファームでは、原発事故の影響から、放射性物質の基準値を下回っていてもトマトが全く売れなかった経験についてうかがいました。また、南相馬原町教会では、司教様から「避難」をテーマに、被災から14年経っても帰宅できてない地域もある現状について説明していただきました。福島ホープツーリズムの参加を通して、現地の方からお話を聞くことで、今の福島を感じることができました。



▲ワンダーファーム



▲南相馬原町教会

## スタディキャンプ

8月4日～5日の2泊3日、グローバル特進コースの生徒全員でスタディキャンプに参加しました。3日間で22時間を超える学習時間を確保し、自学自習を行いました。一人ひとりが目標を立て、計画的に学習することができました。1日目はスイカ割り、2日目はリフレッシュタイムを活用してバーベキューで楽しむなど、充実したスタディキャンプになりました。



▲ロッジ



▲ミーティングルーム



▲BBQ

## インドネシア短期研修

7月26日から8月1日までのインドネシア短期研修に参加しました。初めは緊張していましたが、ホストファミリーからもレジーナパシスの学校の方々からも優しく歓迎していただき、安心しました。夕方、街中に流れるモスクからの歌や、朝7時から始まる学校生活など、日本とは違う文化に触れ、視野が広がりました。また、英語は積極的に話すことで上達すると実感しました。これらの体験を活かして、これからも頑張っていきたいと思います。

1年A組 辻野 杏樹



「こもればカフェ」月に1回実施中です!!

- コーヒー：150円
- お菓子：160円
  - ・焼きドーナツ
  - ・パウンドケーキ
  - ・クッキー など
- コーヒーとお菓子セット：300円

TikTok

どちらも  
福岡海星女子学院高等学校  
と検索すれば出てきます！

instagram

kaisei.\_1208 ~



福岡海星女子学院高等学校

@f.\_kaisei

福岡海星女子学院高等学校 ~



@kaisei.\_1208

いいね、フォロー  
拡散よろしくお願いします！

## Schedule of events

9/24	水	芸術鑑賞会
9/29	月	風紀検査
10/1 ~3	水~ 金	中間考査
10/14 ~18	火~ 土	シンガポール 修学旅行
10/14 ~17	火~ 金	関東修学旅行